

## 単元名 (書写)楷書と仮名を調和させて書こう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 楷書に調和する仮名の筆使いを理解することができる。  
 (3) 仮名に関する自己の課題を把握し、その解決に向けて取り組もうとする。

## 標準的な展開例

10210121\_001

【教材名】「いろは歌」 (P. 24～P. 39)

【準備等】レポート用紙, 模造紙, 画用紙等の用紙, 便箋と封筒, フェルトペン, サインペン等の筆記具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 筆脈と配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いろは歌」を硬筆で試し書きをする。</li> <li>楷書に調和する仮名について話し合う。</li> </ul> <p>○本時の学習課題をつかむ。  <b>★筆脈と配列を理解して書こう。</b></p> <p>○「いろは歌」を半紙に練習する。</p> <p>○「いろは歌」をまとめ書きをする。</p> <p>○「いろは歌」を硬筆でまとめ書きをして、本時の学習の振り返りを行う。</p> <p>2 楷書に調和する仮名の字形, 筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時で学習した基準を確認する。</li> </ul> <p>○本時の学習課題をつかむ。  <b>★楷書に調和する仮名の筆使いを確かめよう。</b></p> <p>○平仮名47文字(いろは歌)を半紙に, 小筆を使って練習する。</p> <p>○教材と比較し, 自分の課題を見つける。</p> <p>○自分の課題を意識しながら, 平仮名47文字(いろは歌)を書く。</p> <p>○本時の学習の振り返りをする。</p> <p>3 漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楷書に調和する仮名(毛筆, 硬筆)について, これまで学習したことを想起する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li><b>★漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書こう。</b></li> <li>「竹取物語」を音読する。</li> </ul> <p>○小学校書写から継続して学習してきた既習内容を確認する。</p> <p>○確認内容を生かして, 「竹取物語」の一節を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書(p. 25)に書かせる。</li> <li>注意する点は, 線から線, 点画から点画へのつながり, 文字の中心, 文字の大小, 余白である。</li> <li>よくない例等を何種類か用意して, 調和のとれていない点について話し合わせるとよい。</li> <li>筆脈や漢字と仮名の大きさ, 配列に気を付けて書かせる。</li> <li>「筆脈」を書写の用語として指導する。</li> <li>「歌」は筆順に気を付けて書かせる。</li> <li>筆脈を意識できるように, 「い」「は」を部分練習させるとよい。</li> <li>文字の配列(中心線や字形)にも注意を向けさせる。</li> <li>【評】筆順や文字の配列を理解する学習を通して, 「知識・技能」を評価する。</li> <li>教科書(p. 25)に記入させる。</li> <li>基準は, 以下のとおりである。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①始筆, 送筆, 終筆, さらに筆脈を意識して書く。</li> <li>②仮名は漢字よりも小さめに書く。</li> <li>③配列(文字の中心や字形)に気を付けて書く。</li> </ul> </li> <li>「いろは歌」を使い, 仮名の成立や楷書に調和する仮名の筆使いについて学習することを理解させる。</li> <li>仮名の成立について理解させる。</li> <li>半紙を横置きにして, 縦8列, 横6行に折らせ教科書(p. 26～p. 27)を手本にして, いろは歌を練習させる。</li> <li>「ゐ」と「ゑ」について, 歴史的仮名遣いのにきに使用することを知らせる。</li> <li>基本的な筆使いとして, 右回り, 右回り+折り返し, 結び, 左回り, 左回り+折り返しについて意識させる。</li> <li>相互評価させ, 課題を見つけさせてもよい。</li> <li>【評】楷書に調和する平仮名を書く活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>教科書(p. 27)に記入させる。</li> <li>楷書に調和する仮名について, 毛筆での筆使いを硬筆に活用したことを確認する。</li> <li>書写学習が文字の学習にとどまらない言語の学習であること, 「読む」(読まれる)ことにつながる「書く」学習であることに気付かせる。</li> <li>「考えよう」(p. 28)を使って指導する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字(楷書)と仮名の大きさ</li> <li>②行の中心</li> <li>③余白, 字間, 行間(本教材では縦罫線用紙に書くため不要), 上下と左右の余白</li> </ul> </li> <li>文節や単語の切れめについて「読みやすさ」の観点から, 工夫が必要であることにも触れたい。</li> </ul>

- 日常的な場面，学習活動への活用を想起し，振り返りを行う。

#### 4 漢字と仮名の大きさや配列を理解して，さまざまな形式に生かして書く。

- 前時の「竹取物語」での学習を復習する。
- 本時の学習課題をつかむ。  
★漢字と仮名の大きさや配列を理解し，生活に生かそう。
- 形式に応じた配列について，これまでの学習内容を確認する。
- 「読みやすさ」の観点から，その効果と意味について考える。
- 自己の設定した課題に取り組む。
- 相互評価を通して，振り返りを行う。

【評】読み手意識をもち，漢字(楷書)と仮名の大きさや行の中心を書く活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・教科書(p. 29)に記入する。
- ・次時(原稿用紙，レポートの形式，手紙)の予告をし，日常生活で生かす意識をもたせる。
- ・教科書(p. 30～p. 33) (p. 36～p. 37)では，①レポートの形式に書く②手紙を書く③帯やポップ④ポスターの4教材が用意されている。全ての配列に触れることは必要だが，生徒の実態や他教科，領域との関連を検討し，重点化や選択化も含めて，工夫して指導したい。
- ・漢字(楷書)と仮名の調和方法について確認する。

- ・レポートの形式や，手紙それぞれの基本的な配列について，小学校での学習内容を確認する。
- ・それぞれの形式ごとに「読みやすさ」のために効果的な書き方があることを，読み手の立場から意識を向けることで理解できるように理由を考えさせたい。
- ・国語の単元や，他教科，領域との関連を生かした課題に取り組ませる。

【評】形式に合わせた配列を理解し書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・互いの作品のよい点を認め合わせたい。
- ・教科書(p. 33)に記入させる。

#### 【 備 考 】

日常生活において，文章の大半が漢字仮名交じり文で書かれている。漢字の楷書とそれにあった平仮名を調和させて書くことは，今後の生活にとって大切なことである。そこで，硬筆・毛筆との関連を考えた学習を設定し，相互活動や互いの作品を鑑賞するなどの活動を取り入れ，日常の書写活動に生かせるようにしたい。

季節の行事と書写 教科書(p. 34～p. 35) (適時)

文字の変遷 教科書(p. 38～p. 39) (適時)

暮らしの文字を支える人々 教科書(p. 54) (適時)

補助教材集 楷書と仮名の調和「広がる世界」「古典に学ぶ」 教科書(p. 141)

情報を整理して，活動につなげよう 教科書(p. 110～p. 111)